

〔ニテンピラム粒剤〕

農林水産省登録 第19103号

性状: 淡褐色細粒

毒性: 普通物

危険物: —

有効年限: 4年

包装: 1kg×12、3kg×6

ベストガード® 粒剤

有効成分: ニテンピラム1.0%

殺虫剤分類 4A



「住友化学農業ガイド」の見方: i-農カサイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報: こちらのQRコードを読み取るとi-農カサイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧いただけます。

〔適用と使用方法〕

| 作物名 | 適用害虫名 | 使用量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|--------------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------|--------------|
| なす | アブラムシ類 | 5 g / 培土 ℓ | は種時 又は鉢 上げ時 | 本 剤: 1回 ニテンピラム: #1 | 育苗培土 混和 |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1 g / 株 | 育苗期 | | 株元処理 |
| | | セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用 土壌約1.5~4 ℓ) 当り50 g | 育苗期 後半 | | 散布 |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ | 1~2 g / 株 | 定植時 | | 植穴処理 土壌混和 |
| | アブラムシ類 | 2 g / 株 | 前日 | 本 剤: 3回 ニテンピラム: #1 | 生育期 株元散布 |
| トマト ミニトマト | アブラムシ類 コナジラミ類 | 5 g / 培土 ℓ | は種時 又は鉢 上げ時 | 本 剤: 1回 ニテンピラム: #1 | 育苗培土 混和 |
| | | 1~2 g / 株 | 育苗期 | | 株元処理 |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 | セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用 土壌約1.5~4 ℓ) 当り50 g | 育苗期 後半 | | 散布 |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1~2 g / 株 | 定植時 | | 植穴処理 土壌混和 |
| ハモグリバエ類 | 2 g / 株 | | | | |
| すいか | アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類 | 1~2 g / 株 | | | |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1 g / 株 | 育苗期 | 株元処理 | |
| きゅうり | コナジラミ類 アブラムシ類 アザミウマ類 | 5 g / 培土 ℓ | は種時 鉢上げ時 | | 育苗培土 混和 |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1 g / 株 | 育苗期 | 株元処理 | |
| | アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 | 1~2 g / 株 | 定植時 | 植穴処理 土壌混和 | |

| 作物名 | 適用害虫名 | 使用量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|---------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------|---------------------|
| ピーマン | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1 g/株 | 育苗期 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#1 | 株元処理 |
| | アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類 | 1～2 g/株 | 定植時 | | 植穴処理 土壌混和 |
| とうがらし類 (ししとうを除く) | アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ | | 育苗期 | | 本 剤：1回 ニテンピラム：#2 |
| ししとう | アブラムシ類 コナジラミ類 | 定植時 | | | |
| メロン | アブラムシ類 コナジラミ類 | 1 g/株 | 育苗期 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#2 | 株元処理 |
| | ミナミキイロアザミウマ | 1～2 g/株 | 定植時 | | |
| いちご | アブラムシ類 | 1 g/株 | 前日 | 本 剤：3回 ニテンピラム：#2 | 生育期 株元散布 |
| | チバクロバネキノコバエ | 1～2 g/株 | 前日 | | 生育期 株元散布 |
| ねぎ | ネギアザミウマ | セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用 土壌約3～4 ℓ) 当り 50 g | 定植 当日 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#1 | 散布 |
| | ネギアザミウマ ネギハモグリバエ クロバネキノコバエ類 | 6 kg/10 a | は種時 | | 作条処理 土壌混和 |
| | | | 定植時 | | 植溝処理 土壌混和 |
| | ネギアザミウマ ネギハモグリバエ | 5 g/培土 ℓ | は種時 | | 育苗培土 混和 |
| わけぎ あさつき | ネギハモグリバエ | 6 kg/10 a | 前日 | 本 剤：3回 ニテンピラム：#1 | 株元処理 |
| しゅんぎく | アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ | 9 kg/10 a | 定植時 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#3 | 植溝処理 土壌混和 |
| | アブラムシ類 | | 3日前 | | 生育期 株元処理 |
| カリフラワー | アブラムシ類 アザミウマ類 | セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用 土壌約1.5～4 ℓ) 当り 50 g | 育苗期 後半 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#4 | 散布 |
| | アブラムシ類 | 1 g/株 | 定植時 | | 植穴処理 土壌混和 |
| ブロッコリー | アブラムシ類 アザミウマ類 | セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用 土壌約1.5～4 ℓ) 当り 50 g | 育苗期 後半 | 本 剤：1回 ニテンピラム：#4 | 散布 |
| | | 1 g/株 | 定植時 | | 植穴処理 土壌混和 |

| 作物名 | 適用害虫名 | 使用量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|-------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------------------|-------|--------------------|--------------|
| レタス | ナモグリバエ | 0.5～1 g/株 | 育苗期後半 | 本剤：1回 ニテンピラム：#1 | 株元処理 |
| | | 10 g/培土ℓ | は種時 | | 育苗培土混和 |
| | アブラムシ類 | セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5～4ℓ) 当り50 g | 育苗期後半 | | 散布 |
| 食用ぎく | アブラムシ類 ミカンキイロアザミウマ マメハモグリバエ | 2 g/株 | 前日 | 本剤：2回 ニテンピラム：#5 | 生育期 株元散布 |
| すいぜんじな | アブラムシ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類 | 9 kg/10 a | 定植時 | 本剤：1回 ニテンピラム：#3 | 植溝処理 土壌混和 |
| | | | 3日前 | | 生育期 株元処理 |
| ズッキーニ | アザミウマ類 | 1～2 g/株 | 定植時 | 1回 | 植穴処理 土壌混和 |
| うり類 (漬物用) | アブラムシ類 | | 定植時 | | |
| ばれいしょ | | | | | |
| きく | ミカンキイロアザミウマ マメハモグリバエ | 2 g/株 | 発生初期 | 4回 | 生育期 株元散布 |
| | アブラムシ類 | 1～2 g/株 | | | |
| きんせんか | マメハモグリバエ | 2 g/株 | | | |
| 花き類・ 観葉植物 (きく・きんせんかを除く) | アブラムシ類 | 1～2 g/株 | 定植前 | 本剤：1回 ニテンピラム：4回 | 培土混和 |
| | | 3～5 g/培土ℓ | | | |
| | | 1～2 g/株 | | | |

- #1：4回（定植時までの処理は1回、定植後は3回）
 #2：4回（定植時の土壌混和は1回、株元散布及び散布は合計3回）
 #3：2回（定植時の土壌混和は1回、株元処理は1回）
 #4：5回（育苗期は1回、定植時は1回、定植後は3回）
 #5：4回（株元散布は2回、散布は2回）
 #6：5回（植付時までの処理は1回、植付後は4回）

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて秤量し、使いきる。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- マルハナバチを利用する場合、本剤使用後20日目ごろより後に導入する。

ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意する。

- ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用する。作業後はうがいをする。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

〔品目特性〕

- ユニークな作用を持つベストガードは優れた浸透移行性と効果の持続性により、定植時植穴処理（野菜）・生育期株元散布（ねぎ・花き）・育苗期後半株元処理（なす・レタス）により野菜・花き類の吸汁性害虫の省力防除が可能です。
- 従来の神経系殺虫剤（有機りん剤、カーバメート剤、合成ピレスロイド剤等）に感受性の低下した害虫にも高い効果を示します。又、難防除害虫マメハモグリバエの初期密度も抑制できます。

（野菜・花き類の場合）

- 野菜・花き類の重要害虫アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類等を、定植時植穴処理、育苗期後半株元処理、生育期株元処理にて長期間防除します。
- 吸汁性害虫防除と同時にマメハモグリバエの密度抑制効果が認められます。
- 処理葉量が少なく経済的です。
- 水溶剤との体系防除により効率的防除が可能です。